



平成 27 年 5 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社プラザクリエイト
代表者の役職名 代表取締役社長 大島 康広
(JASDAQ コード番号 7502)
問 合 先 管理本部長 大橋 正信
T E L 0 3 - 3 5 3 2 - 8 8 2 6

連結業績の業績予想との差異及び個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

平成27年3月期（平成26年4月1日～平成27年3月31日）の連結業績の業績予想との差異及び個別業績の前期実績との差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績の業績予想との差異

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回業績予想 (A)	20,000	500	500	300	21.68
今回実績 (B)	18,992	339	295	211	15.32
差異額 (B-A)	△1,008	△161	△205	△89	
増 減 率 (%)	△5.0	△32.1	△40.9	△29.3	
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期))	20,137	516	502	309	26.49

(注) 当社は、平成26年4月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

差異の理由

当連結会計年度のプリント事業において、新概念「フォト&モア」店への取り組みや「なんでもダビングサービス」の受付体制の強化等により、直営店の既存店売上が前年同期比100%を超えるなど、売上高は、ほぼ前回発表予想通りに推移いたしました。

しかしながら、消費税増税後の想定以上の消費低迷と回復力の鈍化もあり、主力サービスであるプリント需要の低迷に加えて、年賀状プリントにおいても総受注枚数は、ほぼ前年並みの実績に留まりました。結果として、「なんでもダビングサービス」関連費用に加えて、新概念による店舗展開や当社グループでのビスタプリント製品の取扱い準備に向けた店舗システム刷新等の先行費用、仕入価格の高騰による影響等もあり営業利益が前回予想を下回る見込みとなりました。

また、上記の営業利益の影響に加え、持分法適用関連会社のビスタプリントジャパン株式会社の事業立ち上げ費用の増加等により経常利益及び当期純利益が前回予想を下回る見込みとなりました。

このような状況に対し、当社グループは、「フォト&モア」店の効果測定から今後も引き続き、既存のプリントショップの店舗リニューアル及び新店の出店に積極的に取り組む所存であります。

また、好調な「なんでもダビングサービス」に引き続き注力し、店舗力強化によるプリント売上の回復に努めるとともに、順調に推移しているモバイル事業の業容拡大に向けて経営資源を積極的にシフトさせることで、プリント事業の収益改善及びモバイル事業の収益拡大に努めてまいります。

2. 個別業績の前期実績との差異

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回実績 (A)	11,714	129	391	312	26.80
今回実績 (B)	5,280	59	191	187	13.57
差異額 (B - A)	△6,434	△70	△200	△125	
増 減 率 (%)	△54.9	△54.2	△51.1	△40.0	

(注) 当社は、平成26年4月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

差異の理由

当社は、当事業年度においてグループの組織再編の一環として、当社が営んでいたプリント事業の本部機能とモバイル事業の一次代理店業務を当社の100%連結子会社である株式会社プラザクリエイトストアーズに吸収分割の方法で平成26年10月1日付けで事業を移管しました。

これに伴い、当事業年度の下期から移管された事業の売上高と利益が減少しております。

また、経常利益の減少理由として、子会社の貸付金について貸倒引当金の戻入れが1億43百万円減少したことによるものです。

以 上